

2017年2月19日(日)朝10:10
2月第3共同主日礼拝式説教

主の降誕節第9、臨時役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**第7の封印について、 永遠の王となり給う**

聖書：ヨハネの黙示録 11章15～19節

＜口語訳＞

新約聖書397頁

ヨハネの黙示録 11章15～19節

＜新共同訳＞

新約聖書465頁

ヨハネの黙示録 11章1～14節

＜新改訳第3版＞

新約聖書488～489頁

ヨハネの黙示11章1～14節＜塚本訳＞

新約聖書801頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦い、御使の祈り、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章は、強い天使が神の恵みの啓示と審判、創造主へ誓い、ヨハネが巻物を食べこと、11章1～14節は、2人の証人の奉仕と殉教の箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録11章15～19節は、主なるキリスト・イエス様の王即位と24人の長老の神礼拝、神服従者への報いをヨハネに啓示された箇所です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第11章15～19節から
主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録11章15節；ヨハネは、主キリスト・
イエス様の王即位の宣告を啓示されました。

◇15～19節；塚本訳◆第7のラッパ-天に
おける大歓呼

「15（やがて）第七の御使いがラッパを吹いた。
すると（沢山の）大きな声が天に起こって
こう言うた——（今や）この世の王国は我ら
の主（なる神）とそのキリストの有となった。
彼は永遠より永遠に王となり給うであろう」
と、ヨハネは主キリスト・イエス様の王即位
を啓示されました。

◇15節；ヨハネは、「天からの大きな声」が、「（今
や）この世の王国は我らの主（なる神）とその
キリストの有となった。彼は永遠より永遠に
王となり給う」との宣告をするのを聞きました。

⇒「この世の王国」の「王位」を「我らの主（なる
神）とそのキリストの有」とされることとなり、
「永遠より永遠に王となり給う」のです。

⇒「この世の君・王」は、「サタン」でした。

- ⇒「この世」が、「**我らの主(なる神)とそのキリストの有**」となり、「**(この世の)永遠より永遠に王となり給う**」ことは、同時に「**サタンの敗北**」宣言でもあります。
- ⇒**最初に創造された人間、アダムとエバが、「サタンの誘惑のことば」に聴き従い、神の命令みことばを軽視した時以来、「サタン」は、「神に聴き従わないこの世」を支配して来たのです。**
- ⇒「**天からの声**」は、**16～17節の24人の長老の神礼拝の姿**から、同じ黙示録4章に登場の「**4つの生き物**」と理解されていますが、別の理解もあります。いずれにしても、**神の宣言のことば**です。
- ⇒「**4つの生き物**」は人間を含む被造物を代表していると、理解されますので、「**サタン**」が、「**この世**」を支配していた間、「**うめき苦しんでいた**」ので、喜びと讚美の思いをもって、大声で告げ知らせているのです。
- ⇒「**主なるキリスト・イエス様**」が、「**この世の王**」であると同時に、「**天の神の栄光の座**」に坐す**栄光の王・主**でもあるのです。

◆ 黙示録11章16～18節 ;ヨハネは、天の栄光の御座の前にいる24人の長老たちの神礼拝の姿を啓示されました。

◇ 15～19節 ;塚本訳◆ 第7のラッパ-天における大歓呼

「16 すると神の前でその座に坐っていた二十四人の長老が平伏し、神を拝して

17 言うた——主なる全能の神、(今)在り給う者、(昔)在り給いし者、貴神が(再び)その大なる権能を取り(自ら)王となり給うたことを感謝する。

18 諸国の民は怒っ(て貴神に反抗し)た。しかし(今や)貴神の御怒りが来た。死人が審判されて、貴神の僕達すなわち預言者と聖徒に、また貴神の御名を懼れる小さい大きい者達に報酬を与え、地を滅ぼす者を滅ぼし給う時が来た！」と、ヨハネは24人の長老たちの神礼拝の姿を啓示された。

◇ 16～18節 ;ヨハネは、「神の前でその座に坐っていた24人の長老が平伏し、神を拝して」、「王となり給うたことを感謝」し、神を「懼れる」人々への「報酬」の「告知」を受けます。

⇒また、「**貴神の御怒り**」も告げ、「**地を滅ぼす者を滅ぼし給う時が来た！**」と、**24人の長老**はと告白しています。

⇒この「**24人の長老の告知・告白**」は、ユダヤ人の基本的発想が含まれていますが、基本的には、「**主キリスト・イエス様が王となり給うたことを感謝**」し、「**神を懼れる者**」への「**報い**」が用意されていることを喜んでいるのです。

⇒私たち、**神礼拝**を大事にしている者にとっては、大きな恵みのことばであり、慰めのことばですが、復讐は主の権能に帰するものですから、地上の生活を赦されている間に、「**神を畏れる生活の恵み**」をあかしさせていただきたいと願います。

⇒**17節**に、「**(今)在り給う者、(昔)在り給いし者、**」と、**4章8節**の「**後來たり給う者！**」が省略されてることについて、「**主キリスト・イエス様が、天のみならず、地上のこの世でも、王となられた**」ゆえ、「**後來たり給う者！**」と讚美しなかったと、理解されています。

⇒私たちは、先取って、讚美します。

◆ 黙示録11章19節;ヨハネは、**天の至聖所にある栄光の御座の契約の箱**を啓示された。

◇ 15～19節;塚本訳◆第7のラッパ-天における大歓呼

「19 すると天にある神(の至)聖所が開いて、(至)聖所の中にあるその契約の櫃が見えた。そして(地には恐ろしい)電光と轟きと雷と地震と大きな雹とがあった。」と、ヨハネは**至聖所の契約の箱**を啓示された。

◇ 19節;ヨハネは、「**神の御座の至聖所の契約の箱**」を見ることを赦されました。

⇒「その座にいますかたは、碧玉や赤めのうのように見え、また、御座のまわりには、緑玉のように見えるにじが現れていた。」(黙示録4:3)や黙示録10:1から、「**神の栄光の御座**」には、ノアの箱舟の時現れた永遠の神の契約、再び洪水で滅ぼさないとの約束のしるしの「**虹**」が現れていたと、KT師は、語っておられます。

⇒現実には、紀元70年にエルサレムの神殿は崩壊し、契約の箱も失われていて、「**至聖所の契約の箱の幻**」は、**神の救いの希望**でした。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦い、御使の祈り、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章は、強い天使が神の恵みの啓示と審判、創造主へ誓い、ヨハネが巻物を食べこと、11章1～14節は、2人の証人の奉仕と殉教の箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録11章15～19節は、主なるキリスト・イエス様の王即位と24人の長老の神礼拝、神服従者への報いの啓示です。

- ⇒ **神の裁き**は、「**神に聴き従うことを拒む者**」、**偶像礼拝**とその結果の**不品行の罪**に対して及びます。
- ⇒ 併し、**神の圧倒的な恵み**によって「**神の子**」と呼ばれ、「**額に神の印を受けた者**」と認められ、「**今あるは神の恵み**」と、**神に感謝し、讚美**できることを喜び合いたいとねがいます。
- ⇒ **神の恵み**は、「**強い天使**」が、「**雲、虹、太陽**」で示し、**神の厳しい裁き**の中でも、**不変**であることを身をもって証言しました。
- ⇒ そして、「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。
- ⇒ 地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しつづけたいと願います。
- ⇒ 「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。